

春の雪笥の縁に少しかな

田中裕明（『山信』）

『山信』は田中裕明が二十歳を自祝してつくった第一句集だ。昭和五十四年の作とあるから、まだ十九歳の作品である。前書きに「木曾三句」とある。

露味噌や山は一夜の雪被り

春の雪笥の縁に少しかな

雪解風水面はしりて蜘蛛朱し

が並んでいる。この頃、「青」の仲間たちとよく吟行をしたのだろう。吉野、吉川、亀岡、北近江、笠置、熊野などの地名が付されている。木曾は、宇佐美魚目さんが開拓された吟行地だ。それにしても、この三句、とても十代の作とは信じられない落ち着きようである。俳句の骨法も、みずみずしい詩情も、すでに完成の域に達している。ここからさらに『花間一壺』『櫻姫譚』へと奔放に踏み出してゆくことを思えば、ある意味、行儀の良い句集とも、修行時代のまとめとも言えなくはない。わづか百句を収めた墨書、私家版の句集。田中裕明らしくややはにかんだ出発ではあるが恐ろしい句集でもある。